

## ICT成長力懇談会 第5回議事要旨

- 1 日時 平成20年4月3日(木) 17:00～18:25
- 2 場所 総務省8階 第1特別会議室
- 3 出席者 伊丹座長代理、岡村構成員、勝間構成員、篠崎構成員、  
徳田構成員、野原構成員、古川構成員、森川構成員  
鈴木総務審議官、小笠原情報通信政策局長、寺崎総合通信基盤局長、  
中田政策統括官、松本官房技術総括審議官、松井官房審議官、  
鈴木総合政策課長、今川総合政策課調査官、  
行政管理局長屋情報システム企画課長、自治行政局市橋自治政策課長

### 4 議事要旨

- (1) 冒頭、伊丹座長代理からの挨拶の後、事務局より資料について説明を行い、資料について構成員の間でフリーディスカッションが行われた。主な内容は、以下のとおり。

#### 【岡村構成員】

メディアはまだまだ様々な可能性がある。我々はまだネットを利用しきれていないと思う。電子教科書や電子マネーなどの利用が進んでいくことが大切。

もっとアーカイブを利用し、例えば放送大学の授業をオンデマンドで受けたい時間に受講し、生涯教育に活かしたり、自治体でも住民票取得をネット上で取りやすくすることも考えられるのではないかな。

行政について、既存のテレビ電話システムを使えば提供できるサービスが実際にはできていない。技術的にできるはずのことが実現していない。

拡大版ユビキタス特区の着眼点は素晴らしいと思うのでこれからも様々な具体的なアイデアがでてくるといいし、色々な制度も実証実験的に検証できればいいと思う。良いアイデアについては先端ICTサービスとして認定するなど、より積極的に評価すべき。

#### 【野原構成員】

「ICT成長力懇談会」の中間取りまとめだから、産業の成長につながるビジョンや施策についての記述が重要だ。ICTを利活用すれば必ず成長するとは限らない(例えば人が減る等)ため、現在の産業がICTを活用することにより、「新たな事業領域が生まれる」、あるいは、「国際競争力が高まりグローバル市場で事業規模拡大していく」といったことが起こることが成長につながる。その点についての記述を強調すべきではないか。

一方で、成長につながらなかったとしても、ICTの利活用が進んでいくこと自体が重要。それらが人々の豊かな生活を実現し、社会の将来像につながる。

したがって、ICTの利活用が進むような具体的な政策を盛り込んでいくことが必要。今回の取りまとめでのICTの利活用は、「u-Japan戦略」では駄目。光回線の普及率が高まるとか、あるサービスの普及率が高まるといった、これまでの方向性や目標の延長線上にあるものでは駄目。例えば、支給者サイドで一旦デジタル化したデータを源泉徴収票という紙媒体に印刷して受給者に渡し、受給者が確定申告時に再度PC入力してデジタル化し直すといった現在の「E-tax」ではなく、支給者がデジタル化したデータを確定申告時まで共有するというように、共通データベース化、フォーマットの共通化など、「ICT利活用の質的变化」をおこすこと、「次世代ICT利活用」を目指すことが大切ではないか。

未来の社会像として、新しい産業領域が提案されるなどすればわかりやすいのではないか。

#### **【古川構成員】**

まとめの方向性は良いと思うが、最終取りまとめではより具体的な内容が必要になると思う。E-taxでの割引を拡大するとか、すべての学校にLANを構築するなどの目標が必要ではないか。ICTを利用することが当たり前の社会をつくるのが大切。

佐賀県は、全国で唯一、電子申請すると最大50%の割引を行っている。相談業務でも、ワンストップ化を意識し、一度受付に相談にきてもらうと、担当のものがその受付に向かい、対応するようになっており、たらい回しにしないようにしている。

高齢者にどうやってICTに興味をもってもらうか。高齢者のリテラシーを高めるよりも、キーボードのタイプではなく音声で認識できるシステムをつくるなど、ICTに詳しくない高齢者でも簡単に使えるようなシステムを構築することが大切。こうしたシステムを家電に結びつければ、高齢者もICTを生活の中で利用できるようになる。コンピューターをインビジブルにすることが重要。

佐賀県ではシステムの共通化により各市町村の負担を減らそうとしている。こうしたことが全国でできるようにしてもらいたい。

ICT活用に関して民間企業から色んな提案が出てくるといい。

#### **【増田総務大臣】**

諮問会議でも民間委員から政策にスピードがないとの指摘があった。ネットと紙の両方で申請するなど非効率な部分を取り除き、業務プロセスの改善を行っていくことが大切。要は「決め」の問題であることも多く、実行することで電子政府をスピードを上げて推進していく。

自治体ごとにシステムの仕様が異なることが多いのでそうした問題も解決していきたい。

ICT利活用が有用であることをこの懇談会で検討してもらい、道筋をつけてもらいたい。ICTの利活用や技術が成長と環境の両立に役立つことや、2010年以降のNGNの次の世代を見据えた議論を行うことなどが重要なステップと考えている。

### 【篠崎構成員】

成長力にFocusすることが大切。技術が切り拓く可能性に対して、人間のつくった様々な仕組みがネックになっていることが多い。そのようなネックの洗い出しをすると、実は小さな事の積み重ねだが、それを、小ぶりではなく大ぶりの目玉プロジェクトの推進過程で、あぶり出し、一体的に取り組めるような仕掛けが大切ではないか。そうでないと、瑣末な議論に散逸して、個々の細かな問題は解決しても、結果的に全体の成長に寄与しないことになりかねない。

仕組みの見直しは、行動のレベルにまでおとせるようなアクションプランが必要。

中間取りまとめは今のもので良いが、最終取りまとめでは目玉となる大型プロジェクトについて掘り下げ、実際に行動に移せる具体的な計画を策定すべき。

特区から何を得たかを総括し、先端的企業が実践してきたことを一般化していくことでICTの利活用が進むのではないか。

### 【徳田構成員】

ユビキタス特区については、離散的に行うのではなく、A特区とB特区でやっている内容をつなぐような超特区を考えてみるべきではないか。また、それらを考えていく上で、ICTのレイヤーとして、1層が基盤、2層がサービス、3層がコンテンツ、4層がコラボと考えていくと、上のレイヤーにまたがる形で枠を外すような取組を率先してやってもらいたい。

### 【伊丹座長代理】

特区とは政策を集中するものというより規制を緩和するものなので、ショーケース的な発想のほうがいいのではないか。

### 【古川構成員】

ユビキタス特区というと周波数のイメージが強いのもっと広いコンセプトの方が良い。

### 【森川構成員】

P. 8の将来像について、ICTの活用が進むことでこれもできるというような目玉をまとめていくことが大切。今はできないが、将来はこうしたことが出来るようになるということを書くべきではないか。

重点分野として工場全体がユビキタスという発想もあるといい。

### 【伊丹座長代理】

「成長の柱」の表現は「新事業領域の創出」とすべき。

### 【勝間構成員】

今の取りまとめ方ではメディアの見出しになりにくい。わかりやすいキャッチコピーが必要。例えば、「世界一の基盤から世界一の へ」など。

人の成長・強化にもう少しFocusする必要があると思う。

副題をつけると良いのではないか。

**【伊丹座長代理】**

「ICTはまだ始まっていない」とか。

**【野原構成員】**

「ICTはまだ始まっていない」いいですね。キーワードがでてくるといい。

**【篠崎構成員】**

日本のつながり力を結集できるようなアイデアが必要だと思う。「世界一の基盤を活用した競争力の回復に向けて」など。

**【森川構成員】**

「つながり」は大事であり、今は全く色々な意味でつながっていない。

**【岡村構成員】**

「ICTは何も語っていない」「ICTはまだ始まっていない」とか。どうしてもっと使ってくれないのか、もっと色々できるというメッセージを出すべき。

**【古川構成員】**

最終取りまとめに今出来ることしか書けないと寂しい。出来ないことでも本気で取り組むということがあってもいい。

例えば、電子マネーについて、本当に硬貨が必要なのか、硬貨は廃止しようというところから議論をするといったアプローチも面白い。

**【伊丹座長代理】**

P12で、「環境負荷の低減」ではメッセージが弱いので、こういう産業や事業を成長の大きな柱にしていくのだという表現に修正すべき。

**【森川構成員】**

「動けICT」でも良い。

**【伊丹座長代理】**

指摘された2点（「成長の柱」及び「環境負荷の低減」の部分の修正）を反映する。

キャッチコピーについては、良い意見があれば事務局に連絡してもらいたい。

中間とりまとめの最終的な修正及び発表は、座長及び座長代理に一任ということで良いか。

**【全構成員】**

異議なし

**【今川総合政策課調査官】**

4 / 7の週に中間取りまとめの公表を予定。

評価及び将来像のための利用者調査は終了。今後有識者調査に移るので、構成員各位にもご協力頂きたい。また、構成員各位(成長懇イレブン)によるリレーコラムを企画したい。

(3)座長代理より、次回の日程は追って連絡する旨説明があり、閉会。

以上